

校長通信 (第2号)

令和6年8月7日
東京都立田無高等学校
校長 長嶋 浩一

1 1～3年第1回保護者会でお話したこと

本校のグラデュエーション・ポリシー(卒業までに育成を目指す資質・能力に関する方針)は、
・高度な情報を管理する能力や自他を尊重し、社会に貢献しようとする意欲を有する人間の育成
・常に変化し続ける社会における様々な状況の中で、的確に状況を判断し、未来を切り拓く能力を身に付け、グローバルな社会で活躍できる人間の育成 です。

私がこの4月に本校に着任して感じたことは、本校の生徒はさわやかなあいさつができて、明るく、素直で優しい子どもたちであるということです。このよさを生かし、伸ばしていきたいと思っています

校長として、子どもを伸ばすためには、次の8点が重要であると考えます。

- 1 人間力を高める
- 2 よい仲間を与える
- 3 知的好奇心を育てる
- 4 見逃さない、見過ごさない
- 5 把握する
- 6 寄り添う
- 7 モチベーションを与える
- 8 見守る

そのために、本校では、以下の取組を学校経営計画に位置付け、実践しています。

- 1 ホームルーム・生徒会・委員会・係活動や部活動等、所属する集団における自身の役割を意識させ、見通しをもち、お互いのコミュニケーションを大切にしながら協力して行動できるように適切な助言を与え、社会の一員として貢献しようという意欲を身に付けさせる。
- 2 安易に大人が答えを出さず、適度な助言を与えて見守りながら、「誰が、いつ、何のために、どのように」行動するべきかを考える習慣を身に付けさせる。
- 3 生徒一人一人をよく観察することで、生徒の可能性(潜在能力)を見極める。その上で現状に満足せず、努力すれば達成できる目標(チャレンジ目標)を共に考え、チャレンジさせる。
- 4 成功からだけでなく、失敗から学ぶことも多い。生徒が何事にも果敢に挑戦し、地道な努力を積み重ねることを認め、励ましていくことで、社会の中で生きていくのに必要な「不撓不屈」の精神(くじけない心)を養う。

3年生の保護者の皆様には、進路選択に当たって意識していただきたいこととして、1～7のような趣旨のお話をさせていただきました。

- 1 合格がゴールではない。合格だけを目指していると、その後目標を失い、燃え尽きてしまうこともある。その先にあること(どのように社会に参画していくのか)を見据える(ビジョンをもつ)ことが必要
- 2 民法改正により18歳で成人に、大人として、主権者としての判断が求められる。
- 3 様々な体験をすることは視野を広げる貴重な学習の機会、学校として様々な体験の機会を提供・紹介していく。
- 4 AO・自己推薦入試は総合型選抜に変更、面接や小論文だけでなく、学習に必要な基礎知識や素養も問われる。英語民間試験におけるCEFRのスコアや合格証書の提示を求めてくる大学も増加している。
- 5 大学入試センター試験に代わり大学入学共通テストに、出題傾向を大きく変更、私立では新しい流れに沿った大学もあれば、従来と形を変えずに入学者選抜を実施している大学もある。

6 この学年から一人1台端末を導入した。本校ではリクルートのクラウドサービス「スタディサプリ」を採択、週末課題や動画配信等で活用、特に3年生は、進路実現のために学校の授業や夏期講習及び配信課題等だけでなく、多くの学習動画の中から自分が必要とするものを見極め、積極的に活用していくことが求められる。

7 学習に打ち込むことができない、勉強しなければと思っていても迷いが生じていて行動に移せない子もいる。子どもと向き合い、「勉強しなさい」と頭ごなしに言ったり悲観的な表現をしたりするのではなく、なぜ勉強するのか、保護者としてどうお考えなのか、その先にどんな素晴らしい未来が待っているのか、御自身の前向きな言葉で伝え、子どもを信じ、見守っていただきたい。きっと期待に応えてくれると信じている。(1・2年の保護者にも同様の話をさせていただきました。)

1・2年生の保護者の皆様には、以下のような趣旨のお話をさせていただきました。

1 学ぶことの意義を理解させる。

授業を大切に、授業時間を確保するとともに、週末や連休中等に各教科から独自の、あるいはリクルートのクラウドサービス「スタディサプリ」を活用した課題を課し、生徒の学習習慣を定着させようとしている。しかし、必ずしも十分に学習できている子ばかりではない。学習に打ち込むことができない、勉強しなければと思っていても迷いが生じていて行動に移せない子もいる。「勉強しなさい」と頭ごなしに言ったり悲観的な表現をしたりするのではなく、子どもと関わる時間を確保して向き合い、なぜ勉強するのか、保護者としてどうお考えなのか、その先にどんな素晴らしい未来が待っているのか、御自身の前向きな言葉で伝えるとともに、子どもを信じて一緒に考え、見守っていただきたい。お子様は、きっと期待に応えてくれると信じている。

2 将来を見据えた学びの大切さを知る。

大学合格を目的にした学びは、大学入学後に続かない。その後目標を失い、燃え尽きてしまうこともある。その先にあること(どのように社会に参画していくのか)を見据える(ビジョンをもつ)ことが必要。きちんとした教養を身に付けた人は周囲の信頼を得ることができる。真の教養は内に外に繋がりを持ち、人生そのものを豊かにしてくれる。その基本となるのが授業である。

3 大人としての判断が求められる。

民法改正により18歳で成人となる。選挙権を持ち、自分で契約もできるようになる。様々な体験をすることは視野を広げる貴重な学習の機会であるため、学校として様々な体験活動を紹介していくので、その趣旨を御理解いただき、後押しをお願いしたい。

2 第1学期終業式校長講話の内容

今年度版の学校案内パンフレットが完成しました。作成に当たっては、生徒会の皆さんが大いに貢献してくれました。

パンフレットの裏表紙に「楽しいから頑張れる」という言葉があります。「たなし(Tanashi)」と「たのしい(Tanoshii)」は発音が似ていますね。今日はまずこの話から始めたいと思います。

楽しいと楽(ラク)は同じ漢字を使いますが、意味が違います。

楽(らく)は音読みであり、「心身に苦痛などがなく快く安らかなこと、生計が豊かなこと、たやすいこと、簡単なこと」等を意味します。

楽しい(たのしい)の漢字部分は訓読みであり、「満ち足りていて愉快的な気持ちである、裕福である・

金持ちである」等を意味します。英語に置き換えると、楽(らく)は「easy」で、楽しいは「happy」となります。著名な方のお言葉をお借りし、「楽しい」と「楽」について考えてみたいと思います。

楽しいと楽は違う、楽しい事がしたいんだったら楽はしちゃダメ、楽しようと思ったら楽しい事は諦めなきゃ。

この言葉はロックバンドのボーカリストである、甲本ヒロトさんのお言葉です。甲本さんは、1980年代に情熱の薔薇、TRAIN-TRAIN、リングリンダ等の曲で有名なTHE BLUE HEARTSのボーカルとして、若者のカリスマ的存在となりました。現在はザ・クロマニオンズのボーカリストとして活躍しています。長年バンド活動を続けてきていますが、実はバンドの結成と解散を繰り返し行っています。ラウンド・アバウトというグループに始まり、ザ・コーツ、THE BLUE HEARTS、ヒューストンス、THE HIGH-LOWSを経ています。紆余曲折ありながらも常にロックに生きており、独特の感性から発せられる彼の言葉は心に残る名言ばかりと言われています。

彼は、自分らしくいるために楽では無い道を選ぶ人です。どんな状況であれ常に芯が通っていて自分を貫き、周りに影響されません。苦しい道でも、ある種楽しんで取り組んでいるような姿勢がうかがえます。そんな彼が放つ言葉は人の印象に残り、胸を打つような歌詞が残せるのでしょう。

苦しみを背負いながら、毎日小さなことを積み重ねて、記録を達成した。

苦しいけれど、同時にドキドキ、ワクワクしながら挑戦することが、勝負の世界の醍醐味だ。

キャンプでいろいろと試すことは、ムダではありません。

ムダなことを考えて、ムダなことをしないと、伸びません。

努力せずに何かできるようになる人のことを「天才」というのなら、僕はそうじゃない。

努力した結果、何かができるようになる人のことを「天才」というのなら、僕はそうだと思う。

人が僕のことを、努力もせずに打てるんだと思うなら、それは間違いです。

この言葉は2000年オフに日本人初の野手としてメジャーリーグベースボールに移籍し、日米双方でMVP、首位打者、打点王、盗塁王、ベストナイン、ゴールドグラブ賞などを獲得した右投左打の外野手)イチロー選手のお言葉です。彼は、愛知県出身で2019年3月に現役引退しました。現役時代には、メジャーリーグシーズン最多安打(262安打)であり、プロ野球における通算安打世界記録(日米通算4257安打でギネス世界記録に認定)、最多試合出場(日米通算3563試合出場)等、様々な偉業を成し遂げています。努力して結果を出されているイチロー選手の言葉だからこそ、心に響くものがあります。

次に、似ているが別のものである漢字について考えてみたいと思います。それは「辛」と「幸」です。

「辛」という漢字に横棒の「一」を加えると「幸」になる。

よく言及される話題ですが、この源はどこであるのか、諸説があるようです。今日はその中から二点を紹介したいと思います。

○辛いと幸せは、遠い関係ではありません。辛に一本足すと「幸」。辛くても、何か一つ足すだけで幸せになれるんです。(ゴルゴ松本、いのちの授業「動画」)

○辛いという字に一を加えると幸いになる。(広島県超覚寺僧侶 江田智昭「投稿」)

辛苦と幸福は紙一重です。

「辛い出来事」を辛いままで終わらせるか、「幸せな出来事」とするか。それは自分次第です。

小説家の村上春樹さんが『走ることについて語るときに僕の語ること』(文藝春秋)の中で、マラソンのオリンピック銀メダリスト、ルーマニアのリディア・シモンさんの言葉を次のように紹介していました。

「痛みは避けがたいが、苦しみはオプション(こちら次第)」、

英語では、「Pain is inevitable. Suffering is optional.」ということになります。肉体の痛みはどうしてもありませんが、それをただの苦しみとするか、そこから痛みを超えて何かを得るかは自分次第だということです。

42.195km という距離のマラソンにおいては、どんな人でも 30～35km 地点を過ぎると自分の思い通りに走れなくなってくるようです。

私たちの人生も同じです。

ブッダの「一切皆苦(いっさいかいく):人生は思い通りにいかないという意味」言葉があります。

私たちが日々の生活の中で、マラソンの 30～35km 過ぎのように、思い通りにならないトラブルに見舞われることがあります。それらは辛いものですが、だからこそ周りの人々のやさしさが身に沁みたり、当たり前と思っていたことが当たり前ではない有り難いことだったと気づかされたりします。

辛さの中に閉じこもるか、トラブルを少し広い視野で見つめて学ぶべきことと受け止められるかは、まさにこちら次第です。そして学ぶべきことと受け止められれば、その後の人生は大きく変わって いきます。トラブルを単なるトラブルとして終わらせず、そこから数多くのことを学ぶことによって、「辛い」ことが人生に新たな視点を与えてくれる「辛い」になってくるのです。

この夏、皆さんは夏期講習や宿題、受験勉強、苦手科目の克服、部活動、合宿等、それぞれの課題に向けて取り組むことになります。時間は誰にでも等しく与えられています。漠然と日々を過ごしていくのか、目標をもち、計画を立てて有意義な時間を過ごすのかは皆さん次第です。様々な 人との出会いや普段できない貴重な体験を大切にしてください。それらが皆さんの心を豊かにしてくれることでしょう。2学期には、充実した夏を過ごし、成長した皆さんの姿を見ることを楽しみにしています。

③ 「西部学校経営支援センター特別指定校」の指定を受けました。

本校は令和 6 年度西部学校経営支援センター特別指定校に選出されました。

「学校経営指標」の重点課題のうち「学習指導」に着目し、「生徒の主体性を伸長する学習指導の実現」を取組課題として設定しています。

指定を受け、本校には本年度及び翌年度に特別な予算が配付されます。その予算は主として次に掲げる生徒の主体性向上のための取組を充実させるための物品購入に使わせていただきます。

- 1 生徒が自ら課題を設定し、相互の話し合いや史資料との対話等を通した各教科・科目等の探究活動
- 2 被災地訪問や海外派遣研修及び多文化共生等、多様な体験活動
- 3 校内外における、生徒の学習成果発表